

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目

現代におけるドルブットモンゴル族の村落生活に関する研究
—中国黒龍江省ドルブットモンゴル族自治県の布村を事例として—

氏 名

趙 月梅

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、中国最東部に位置する黒龍江省ドルブットモンゴル族の事例を取り上げて、「遊牧」に関する伝統的な研究視点だけではなく、「定住」と「混住」という背景に合わせて、現代におけるドルブットモンゴル族の村落生活の現状を明らかにし、その民族文化の特徴および形成要因を検討したものである。

本論文は、序章と終章以外に、ドルブットモンゴル族自治県の発展史と布村の概況、布村の村落社会の基本構成、布村の衣食住習俗、生計方式、人生儀礼、年中行事、民間遊戯、信仰活動についてそれぞれ章をまとめた。

序章においては、まず研究背景、研究視点と意義を記述し、その後先行研究及びその問題点の整理を行い、さらに研究方法、用語定義と解説を述べたうえで、研究調査の概要と論文構成について記述した。

第1章では、地方文献を分析した結果、ドルブットモンゴル族は、チンギス・カンの弟ハプト・ハサルハサルの第16代の孫であるアイナケによって確立され、清(1685年頃)から徐々に「遊牧」から「定住」へ転換したことを明らかにした。また、**boga** というモンゴル語の村名と **bainn** オボーを中心として、県内布村の形成プロセスを考察した結果、当村は1648年前後ではすでに牧畜業を中心としたモンゴル族の牧畜村落になったことが分かった。

第2章では、現代における布村全戸の家族構造、家族機能、親族関係および家族を超えた村内社交関係を解明して、その村落社会の基本構造を描き出した。考察結果は、まず家族構造から見ると、家族の民族割合の高い順に、モンゴル族家族、蒙・漢通婚家族、漢族家族、蒙・満通婚家族、漢・蒙通婚家族、満・漢通婚家族となることが分かった。さらに、子供の民族認定はモンゴル族の親の影響を強く受ける。また、家族機能面では、「家族機能縮小」の特徴が見られる。親族組織の面では、親族組織は家族関係の延長になり、布村では **turul** と **aha duu** を代表とする父系親族関係が優位に立つことが分かった。加えて、家族を超えた村内社交関係のなかで、擬制的親族関係の“把兄弟”と遊び仲間の“麻友”が重要な位置を占めていることが明らかになった。

第3章では、現代村落社会におけるドルブットモンゴル族の衣食住の現状と特徴を解明した。まず、服飾習俗に関して、おもに服飾の利用率、色の好み、デザイン、素材、消費率によって考察した。また、村人の食生活に関して、文献資料分析と参与観察を中心として、布村の「食」の条件と食品の種類に分けて考察した。その結果、当村の食生活は中国東北地域のやり方とかなり重なっていることが分かった。村人の居住生活に関しては、村落配置と家屋構造に分けて考察した。その結果、村落配置は牧草地の開墾との関連性が存在することが分かった。家屋構造は庭の構造や部屋配置、部屋の装飾によって表れるが、2014年を境に、民族性がある“泥草房”と現代性、統一性が見られる“磚瓦房”に分かれていることが明らかになった。

第4章では、布村の牧畜業生産習俗の日常形態について考察した。筆者は布村の牧草地の変化によって発生する生態環境と牧畜業変遷の関係、牧畜具に見られる機能、モンゴル族の伝統的な家畜飼育習俗の形態と現代市場経済からの影響を考察した。結果として、当村の牧畜業の生産習俗はドルブット地域と一致しており、放牧と「小屋飼育」を融合した家畜飼育方式の形成が見られること、家畜構成は単一化がすすんでいて、その畜産品も徐々に商品化されているという特徴があることを解明した。

第5章では、布村の実際の事例に沿って、彼らの出産習俗、婚姻儀礼と死にまつわる習俗を報告した。うえ、その特徴および形成原因を分析した。まず、出産儀礼に関して、布村の天祭、オボー祭、 “跨火盆”、物品贈答のような子を授かる上での習俗を紹介した。同時に、当村の「TJさんの出産記憶」と「YXさんの出産経歴」の二つの事例によって、「妊娠タブー」、「出産後一か月までの儀礼活動」と「産後日常生活への復帰活動」に見られる変遷と特徴を分析した。

また、婚姻儀礼に関して、おもに婚姻形式と婚姻儀礼に分けて考察した。まず、婚姻形式から見れば、布村では54戸の合法的な婚姻家庭のほかに、2戸のいとこ関係の婚姻家庭と1戸の継承関係の婚姻家庭(夫が死んだ後、その妻は夫の甥と結婚すること)が存在していることが分かった。さらに、当村「趙氏の結婚儀礼」、「趙氏長男の婚姻儀礼」、「趙氏三男の婚姻儀礼」と「趙氏孫の婚姻儀礼」、当時のプロポーズ、婚約、聘金、結婚の各段階を考察した結果、その婚姻儀礼はモンゴル族の婚姻儀礼と漢族の婚姻儀礼の中間に位置付けられることが分かった。

さらに、当村の「死」にまつわる習俗に関して、「死の準備」、「死に関する儀礼」および「墓地に関わる習俗」を取り上げて、その現状を明らかにした。まず、「死の準備」に「心理的準備」と「物質的準備」の2種類が見られ、「心理的準備」の面では靈魂不滅の観念が共通していること、「物質的準備」の面では、棺、“寿衣”と葬儀の宴会という3種類があることを取り上げた。また、死に関する儀礼のうち、埋葬と宴会について考察した結果、遺体埋葬の付属品として「物の埋葬」が存在すること、葬儀の宴会では死者の家族成員側とほかの「関係者」側の間に感情交流がともに発生すること、加えて「男同士、女と子供の組み合わせによって分食する」というモンゴル族の女人禁止観念が観察された。さらに、墓地に関わる習俗では、“做七”儀礼、忌日と春節などに合わせた祭祀儀礼があることと、村内では墓地の陰陽と関連タブーを重視し、この世の世代順に“祖墳”の設置を規範化していることが分かった。

第6章では、布村の年中行事について報告した。結論として、当村年中行事の種類が多い順に、漢族に近い行事、現代の祭り、ドルブットモンゴル族の伝統に近い行事の順になっていることが観察された。また、春節に焦点を当て、「食」、「特有の事物」、「新年の訪問」、「祭祀活動およびタブー」について、その現状、特徴および変遷原因を探索した。結果として、布村の春節は、「伝統モンゴル族春節」でも「漢族春節」でもない、遊牧文化と農耕文化の中間に位置づけられる現代性と地域性を有する祭りであることが分かった。

第7章では、ドルブットモンゴル族に関する地方志と日本の遊戯に関する文献資料を踏まえたうえで、2010～2015年までの布村でのフィールド調査資料に基づき、モンゴル族の伝統遊戯である“鹿棋”と“嘎拉哈”をはじめとした、村落社会におけるドルブットモンゴル族の伝統遊戯の現状、変遷要因および機能に関して考察した。当村の“鹿棋”と“嘎拉哈”遊戯の存在原因を見ると、牧畜業の発展背景と関係が深い。その変遷には周辺漢族、現代化、都市化からの影響と関連性が見られる一方、モンゴル族の伝統文化そのものの浄化（伝統文化の一部を撤去する）現象も観察された。

第8章では、ドルブットモンゴル族の信仰活動の形成プロセスを記述したうえで、布村の事例から、村落社会におけるドルブットモンゴル族の信仰活動の現状を報告した。まず、全体から見れば、ドルブットモンゴル族の信仰活動は、モンゴル族の伝統的なチベット仏教、自然神崇拜と祖先崇拜を継承している傾向があるといえる。また、20世紀の半ばから、彼らは政府の宗教指導および監督のもとでキリスト教、カトリック教、イスラム教を受け入れてきた。さらに、周辺漢族の信仰の影響を受けた結果、彼らは“浄土宗”と“東北四大門”を崇拝するようになった。

一方、布村を事例として村落社会におけるドルブットモンゴル族の信仰活動の現状からは、宗教活動の枠組に属する仏教と民間信仰のシャーマニズムに関する自然神崇拜、祖先崇拜や動物崇拜が村落社会に根付いていることが分かった。特徴としては、村落社会における信仰活動は、政府からの干渉力が弱く、崇拜主体が具体的な生活状況に合わせて、柔軟に信仰の目的、方法、機能などを変化させているため、顕著な民俗性と民衆性が表れていると考えられる。

終章では、本研究の中心問題の答えとして、現代村落社会におけるドルブットモンゴル族の民族文化の変遷特徴とその原因をまとめ、残された課題を提示した。まず、本研究の最後の結論として、現代村落社会におけるドルブットモンゴル族の民族文化は、一部の「モンゴル族の伝統民族文化要素」、一部の「漢族文化要素」と一部の「新たな民族文化要素」によって構成されていることを解明した。また、「モンゴル族の伝統民族文化要素」は、ドルブットモンゴル族の文化の「内空間」を築き上げた一つの原動力で、村人の家族構造、牧畜業と信仰活動によって表わされている。

一方、「漢族文化要素」と「新たな民族文化要素」の部分は、ドルブットモンゴル族の文化の「展開」に影響を及ぼしている外部影響力であり、おもに村人の衣食住、人生儀礼、年中行事によって観察される。その文化変遷は、牧畜業の発展およびモンゴル家庭の存在、混住生活背景、現代ドルブットモンゴル族のアイデンティティの多重性と関係深いことを明らかにした。

残された課題に関しては、ドルブット地域の漢族を中心とした漢・蒙混住村落、内モンゴル地域の蒙・漢混住村落でのフィールド調査を行うこと、研究内容の拡大においては、ほかの少数民族からの影響をともに考察する必要性を示した。

本研究は、従来のモンゴル族に関する研究課題を拡充する価値があるほか、また中国モンゴル族全体の文化変遷を把握する重要なきっかけとなると考えられる。さらに、異文化接触の視点からドルブットモンゴル族の民族文化と中国モンゴル族全体の民族文化および漢族文化との繋がりを解明することにより、ドルブットモンゴル族の民族文化には文化伝承と文化吸収以外に、文化の創造現象が発生しているのではないかということ を明らかにした。定住化・現代化・都市化に巻き込まれた中国他地域のモンゴル族の研究を進めるうえでも、本研究は重要な参考資料を提供すると考えられる。